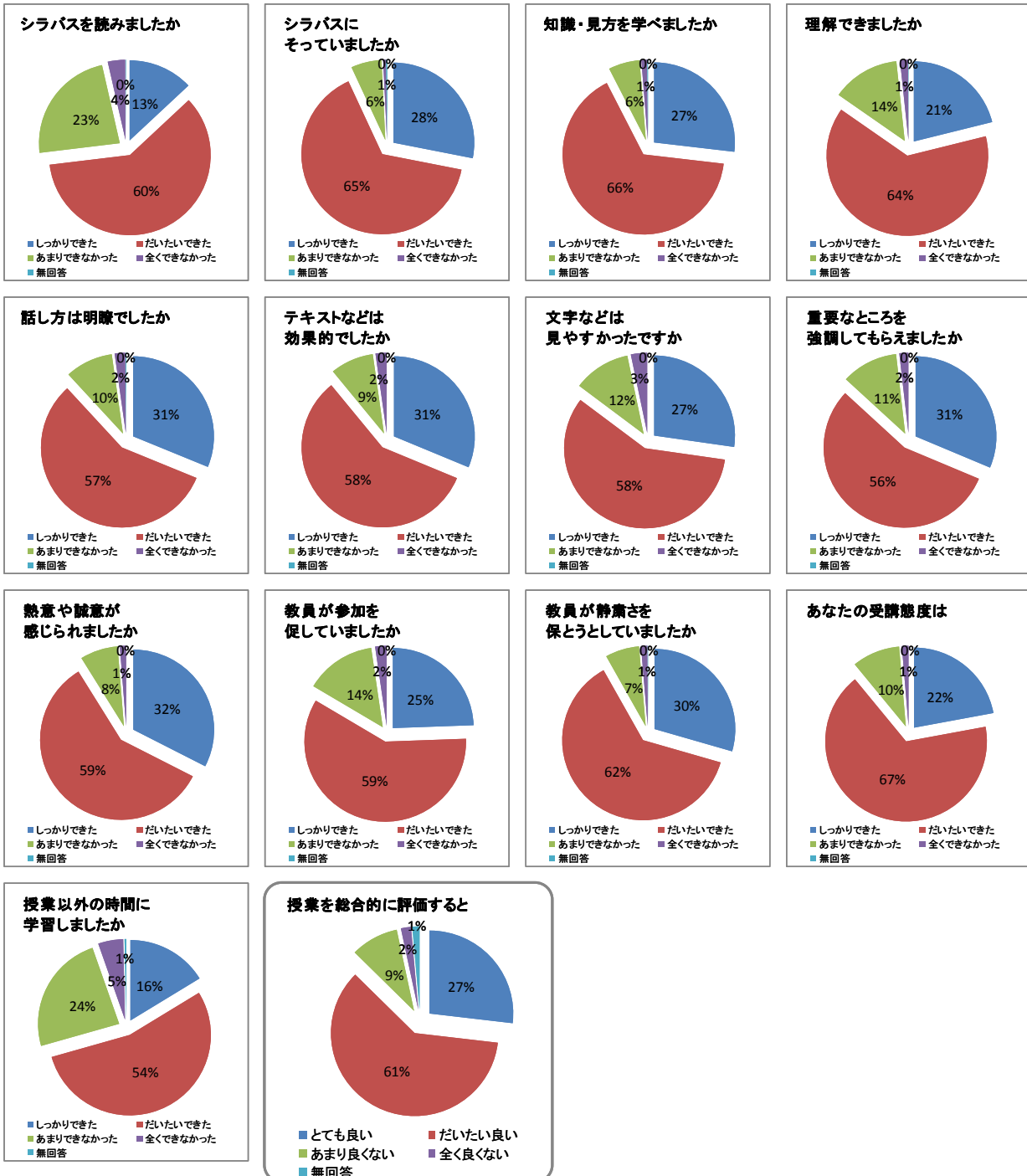


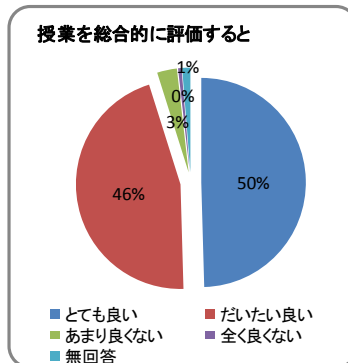
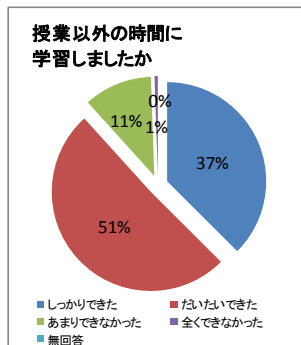
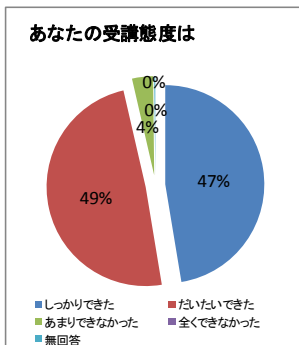
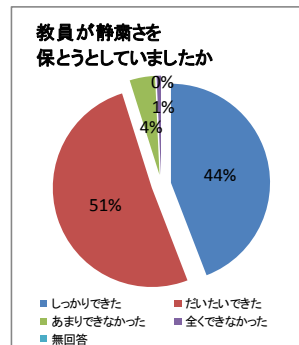
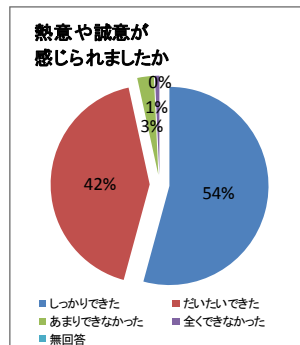
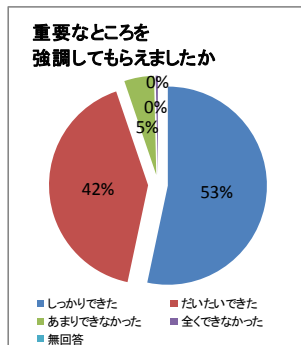
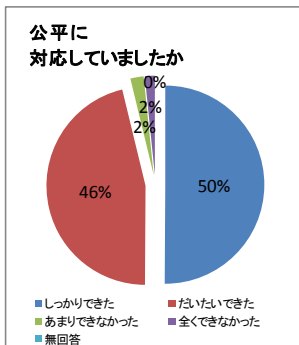
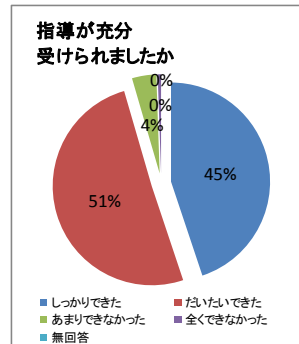
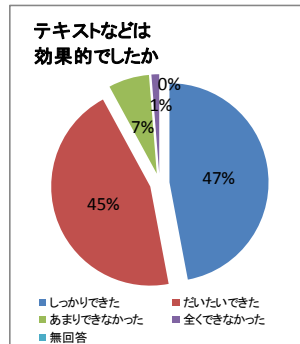
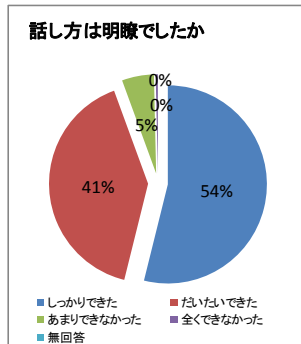
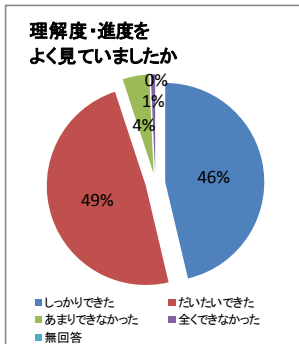
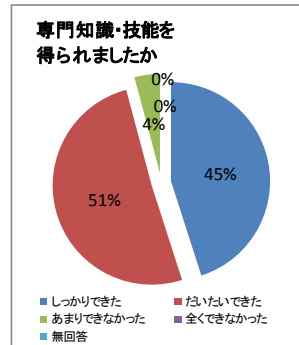
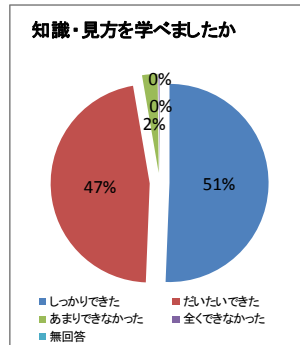
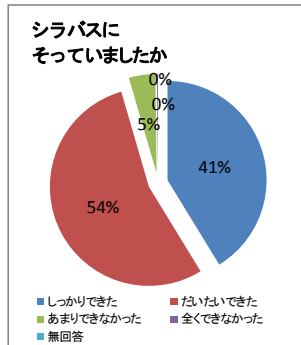
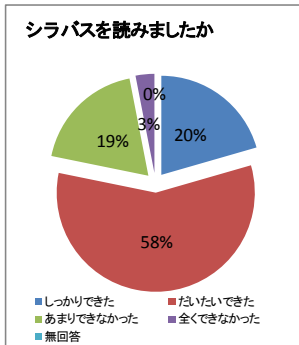
後期授業評価『学生から教員のみなさんへ』

平成 28 年度後期に全学科で、学生による授業評価を実施しました。その結果のまとめが次の図です。

□講義系授業の結果



□実技系授業の結果



<結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 88%、実技系 96%となっており、前期と同様、ほとんどの授業は肯定的な評価を得ていました。

2. 学生の自己評価

☞ 「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 89%、実

技系で 96%と、前期と同様に多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 93%、実技系で 96~98%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、85%の人は授業内容を概ね理解できていますが、一部の人は理解が進んでいない様子もうかがわれました。これは今後の課題として残りました。

- ☞ 講義系の“授業以外の学修”は伸びず、30%の人はあまり復習ができなかった様子です。今後も引き続き対策を考えていく必要があります。“シラバス”を読んだ人は講義系で 73%、実技系で 78%となり、講義系が少し下がりました。気になる評価方法だけでなく、授業目標や到達指標、オフィスアワーの時間などにも目を通しておきましょう。

3. 教員に対する評価

- ☞ 講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要なところの強調」という教授方法に関する項目は、85~89%と前期に比べてやや上がりました。実技系の教員も、「話し方」「テキストの効果的使用」「重要なところの強調」「十分な指導」「公平な対応」が 92~96%と高評価を得ていました。
- ☞ 教員の「熱意や誠意」「静粛さを保つ」という学生への働きかけについては、講義系で 91~92%、実技系で 95~96%と多くの学生から肯定的評価を得ていました。本年度も多くの教員は、前期・後期を通じて熱意をもって授業に望んだ様子です。

後期授業評価『教員から学生のみなさんへ』

平成 28 年度後期授業評価に対する専任の教員（非常勤を除く）から学生のみなさんへの回答をまとめました。

【幼児教育学科】

◆ 特別支援教育 I

①授業評価に対するコメント

総合評価から検討すると、項目ごとにも及第点をいただいている。しかし、授業への参加の方法をもう少し整理し、現場に出た時に役立つような内容や雰囲気を確認したいと考えている。資料映像の活用についても、学生のニーズにあった内容の精選も引き続きの課題である。科目の性格上、生理、病理の分野にまで踏み込んだ内容もあり、学生の気持ちや思いが揺れることも考慮しなければならないと考えている。

②今後の授業での目標

配布資料の改善に心がけていきたい。

講義スタイルのさらなる進化を心がけていきたい。

ミニ演習等を効果的に取り入れ、効果的な講義となるよう心がけていきたい。

学生と教員のコミュニケーションを大切に努めていきたい。

③学生のみなさんへの要望

特別支援教育は、教育・福祉・医療の分野からの多面的なアプローチが大切だと言われている。講義系の学習は、どうしても受動的になりやすく、配布資料の書き込みだけで終わってしまうことが多いように思うので、ぜひ、地元の作業所、療育教室、特別支援学校等の行事にボランティアとして積極的に参加するなど、授業時間外の学習の充実に取り組んでほしい。そして、現場の生の姿から、大学では学びきれない実学を学んでほしい。

◆ 保育内容の指導法（音楽表現）

①授業評価に対するコメント

全ての項目において平均値より高い結果が出ており、学生の皆さんが真摯な態度で受講してくれたことを有難く思います。技能面での修得に差が出てしまいやすい授業内容であるため、全体での活動時には個々への言葉がけを多くしました。熱意や誠意のポイントが高かったことは、その結果と思います。しかし、雰囲気作りのポイントが少し低かったことは、今後気を付けていきたいと思います。40名を超える演習授業であるため、私語等への注意が出来ていなかったと反省しています。

②今後の授業での目標

常に最新の授業内容を取り入れていきたいと思います。実践的な内容を多く含みながら、楽しく主体的に取り組める授業内容を提供していきたいです。

③学生のみなさんへの要望

シラバスを読む、忘れ物をしない、欠席しないことを望みます。

◆ 乳児保育Ⅱ

①授業評価に対するコメント

今年度は、学科平均とほぼ同じ程度の評価となり満足しています。

昨年度からの子ども子育て新制度の実施に伴い未満児の保育がめまぐるしく変化していくことを肌で感じています。保育実習でも未満児クラスに入ることが多くなりました。

そこで、乳児保育の理解とともに実践で使えるようなものを授業に組み込むよう努力しています。評価でも手作りおもちゃ作成が楽しいというコメントがありとてもうれしかったです。

②今後の授業での目標

ふれあい遊び、低年齢への絵本の読み方、遊び方など愚弟的に保育に役立つものを考えていこうと思っています。全体のスタイルは来年度も概ね同じように行う予定です。保育所にいる子どもたちの中で、お話をすることがまだできない“未満児”と呼ばれる乳児に対して、“寄り添って保育する”とはどのようなことなのか、養護性を大切にする生活の細かい内容や発達に沿った遊びの展開などあらゆる角度から理解し実践できるようにしたいと思います。2年生の子育てサロンへの参加へつながる子育て支援についても触れていきたいと思っています。

③学生のみなさんへの要望

「育てられるものから育てるもの」へ変化していく時であることを繰り返し伝えていくので、しっかりと考えて行動できるように願っています。

おおらかな心ややさしい気持ちを持つことは授業に対する態度にも出てきます。将来保育者となる者としての自分のイメージを持って授業に臨んでほしいと思います。

◆ 図画工作Ⅱ

①授業評価に対するコメント

学生の自己の取組に対する評価が各項目とも全学の平均をやや上回っていたことは嬉しく、積極的に授業に取り組んでいることが分かります。毎年4月に図工について聞くと「嫌い・苦手」と答える学生が約半数います。図画工作では図工嫌いや苦手意識のある学生にはその意識を払拭できるように、また、図工が「好き・得意」な学生には更に踏み込んだ技術や表現の修得をして欲しいと願っています。

自由記述から、学んで欲しい描画の基礎的な知識と技術を楽しく習得している様子や、折り紙にも多くの学生がその必要性を感じながら取り組んでいることを嬉しく思います。

後期の授業には共同制作もあり、話し合いながら楽しく制作を進める姿が見られた半面、静粛さを保つということや、個々に対する成果の指導という観点では、難しい部分だったと思います。

また、毎回の折り紙帳は宿題になっているため、全員が授業外で制作に取り組んでいるはずですが、折り紙帳制作も授業外の取組であるという認識を持って、しっかりと取り組んで貰えると良いと思います。

②今後の授業での目標

自由記述には多くの学生が「楽しかった」「図工は苦手だったけど楽しかった」という感想を述べていることから、今後も目標としている図工嫌いや苦手意識の払拭につながるような、更に満足度の高い、楽しく充実した授業を行いたいと思います。

また、各制作の前に評価の観点を説明して、ルーブリックを活用しながら評価をしてきましたが、更に強調すべきところが伝わるような話し方や資料の作成に心がけ、成果に対する個別指導の充実に取り組み個々の満足度を上げられるようにしていきたいと思います。

③学生のみなさんへの要望

図画工作では作品を完成させること、作品と制作過程を振り返りレポートを書くこと、また毎回折り紙に取組み折り紙帳を作ることが課題となっています。欠席があると作品を完成できず評価することができません。授業にしっかり参加して取り組んでください。

また、作品制作のスピードには個人差があります。ただ早いだけでもいけませんし提出期限に間に合わないのもいけません。また、制作レポートは感想を書くものではなく、作品とその制作過程を振り返り考察したことを記入するものです。授業外の時間も活用して丁寧に作品を作ったり、丁寧にレポートを書いたりして提出期限に良いものを提出できるように心がけてください。

【デザイン美術学科】 ※全員が前期に学生評価を受けられました。

【音楽総合学科】

◆ リペア応用（金管Ⅱ）

①授業評価の結果に対するコメント

5項目中、「シラバス」は、自己の取り組みに対する評価で非常に低く、この傾向は、過去から続いている。シラバスって何ですか？みたいな発言も出る事は、もっとシラバスについて理解させる説明をしなければいけないと考える。

そんな中、「学ぶ」については3.8ポイントと好評価であり、自分として何を学ぶのか？を学生一人一人が理解している結果だと感じた。専門職を目指している方向性について、どう指導を行うべきかは、この手法での継続で良いかと考えます。

②今後の授業における目標

前記のとおり、「シラバス」について学生が理解しやすい言葉で説明を行い、授業内容から自己の到達目標をより明確化して行きたい。

③受講学生に対する要望

実技メインの授業になり、4コマ連続もありますが、モチベーションを維持しながら望んで頂きたい。

【歯科衛生学科】

◆ 小児歯科学

①授業評価に対するコメント

学生から教員の取り組みに対する評価において、「シラバス」「話し方」「資料の活用」「文字や書き方」「重要な点の強調」「熱意や誠意」「学生の授業参加」「授業の雰囲気」の8項目において、3.1から3.3（4点満点）の評価点であり、いずれも学科の平均を上回る結果で学生からの良好な評価を得た。また、学生自身の自己の取り組みに対する評価においても、「シラバス」「学ぶ」「理解」「授業態度」「授業外学修」の学生自身の評価で2.8-3.2（4点満点）であり、5項目全てにおいて学科の平均を上回る結果で学生からの良好な評価を得た。ただし授業外の学修が2.8（学科平均2.7、全学平均2.8）であり、予習・復習を含めた授業時間外での学修のあり方に課題が認められた。

②今後の授業での目標

予習・復習を含めて授業時間外での課題設定を実施し、学生と教員との双方向の授業にするよう努め、学生への質問やグループワークによる学習の導入を今後も実施する。授業の中で「どの部分がわからないか」、「わかりにくかった点を再度説明してほしい」、さらに「自分でここまで調べた結果、なおわからない点がある」というように、質問する意図を学生自身が明確化し、質問しやすい授業の雰囲気にしていくように取組みたい。学生自らの学習意欲を引き出す「正の強化による自発的行動変容」に、よりいっそう力点をおいた教育を継続的に展開していく所存である。

③学生のみなさんへの要望

将来の歯科衛生士として歯科医療を担う一員となる自覚を十分にもって、受講態度に気をつけるとともに予習・復習をしっかりと行って授業に積極的に出席する事。

各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館やWEB等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室(G204)まで問題点を整理して聞きにきてください。

◆ 口腔解剖学Ⅱ

①授業評価に対するコメント

プリントとパワーポイントへの改善に関するコメントがほとんどで有った。「テスト範囲の書き方が解りにくい。」や、「カッコ埋め形式のプリントに対して何を書いてよいか解らない。」等々と解らないことばかりのコメントであった。プリントについては、教科書の重要な部分をそのまま引用し、カッコの空白内に単語等を書き込むタイプや分類関係であれば表に書き込むようにしたものである。将来の国家試験受験への準備のためにも教科書で良く調べ、知りたいことや確認したいことなどがすぐに探せられるようになってもらいたいとの思いである。多くのマイナス的なコメントが有ったが、今回の授業評価対象科目以外の歯科衛生学科1年生における授業担当科目「歯科放射線学」も含め、定期試験の採点結果は全体として好成績であり、これまでの学年と比べ全体的に点数が高かった。再試験の対象者が少ないという結果も得られた。

②今後の授業での目標

今回の授業評価では、プリントやパワーポイントの内容についての不満がほとんどであった。これを真摯に受けとめ、改善して行く所存である。その他として、学生に授業の内容が伝わりにくい点が多々あるようであったので、これについてはその都度、学生に確認しながら講義する所存である。それ以前に、授業の中で学生が理解し難い点等をその場で解決できるよう発言してもらえる授業を構成し来年度に向ける所存である。

③学生のみなさんへの要望

3年生になると「歯科総合演習」と言う歯科衛生士国家試験受験に向けての授業が始まる。そこで、過去の国家試験問題や国家試験に向けて行う業者による模擬試験の問題で、ひたすら勉強することとなる。解らないことについては、その前に自分自身で教科書や参考書等で調べ、それでも理解できないところについて、研究室を尋ねて来ます。1年生においても、理解できないことについては、個々により違いがあるので、授業中にはっきりと質問すること、研究室を尋ねることを要望します。

書き込み式のプリントについては、これからも続行の予定ですが、解らないこと等についてはその場ではっきりと指摘してもらうことを要望します。

◆ 発達口腔保健演習Ⅰ

①授業評価に対するコメント

自由記述の良かったところとして、「重要な所をしっかりと言ってくれたので良かった。」「プリント記述以外にも演習もあって身になったと思う。」「明るい雰囲気で分かりやすく楽しい授業でした。」と肯定的な意見がある一方、改善点として「スライドが早い」、「パワーポイントを進めるのが少し速い。」「授業が少し早くてプリントに書けなかった。」という意見がありました。この科目は3年間担

当し、昨年からの授業形態を2コマ続きのしたので、実習やグループワークにじっくり時間をかけてきましたと思います。

学生の自己の取組や教員の取組に関する評価では、全学平均に比べ若干低い結果となっているため、全般的に数値が少しでも高くなるよう次年度はより各項目を意識して、授業に臨みたいと思います。

②今後の授業での目標

今回の授業評価は、H27年度後期と同じ科目の授業評価を行いました。これまでの課題として、学生が理解しやすい資料作成と活用が重要となるので、より理解が深まる資料が作成出来るように心がけます。昨年度と同様、最終講義で理解すべき点をまとめていく授業と間食調理実習を行いました。特に間食調理実習は、学生が調理した間食の熱量・栄養素が理解でき、好評でしたので体験学習として有意義であったと思われます。今後も、授業による知識の習得と体験実習を併せて行うことが、より理解度が増すと思われるので継続していきます。

授業方法ではパワーポイントの活用に指摘があったので、学生が理解しやすいように学生の進み具合に配慮し行っていきます。また、確認テストも随時行い、学生の理解度を深めていきます。

③学生のみなさんへの要望

自己の健康管理を良好にするにはどのようにしたら良いのか、自分自身で考え授業準備をしっかり行って欲しいです。授業は、漠然と聞いていても理解できません。予習・復習をしっかり行い、主体的な受講を望みます。

【看護学科】

◆ 治療支援技術論

①授業評価に対するコメント

学生の皆さんも真面目に取り組んでいたと思います。

②今後の授業の目標

演習時の指導をもう少しきめ細やかにできるように、指導体制を充実させていきたいと思っています。

③学生のみなさんへの要望

看護技術は1回の演習では習得できません。まず演習前には必ず講義の復習(演習の予習)をして、臨むこと、そして演習後は空き時間を活用して積極的に練習を重ねること、その努力を惜しまないで下さい。

◆ 成人看護援助論

①授業評価に対するコメント

今年度、シラバスに沿って授業が進められるように、授業の中でも何度か振り返って読み返しを行うなど、学んでもらいたい点について明確にしてきたつもりであったが、その項目についてはあまり良い結果が得られなかった。シラバス作成の段階から、力を入れてきたにもかかわらず、こちらの思いと学生の感じ方にギャップがあることがわかり、しっかり伝えられるように今後の課題としていきたい。

その他については、「おもしろい」「わかりやすい」など一部の学生から良かった部分についての記載もあったが、授業中の居眠りや他の教科の課題など授業以外の学習を行っている学生もいるため、もう少し興味をもってもらえる授業内容にしていく必要があると感じた。今後は学生のやる気を高め、学生主体の授業が出来るように努力していきたいと思う。

②今後の授業の目標

自分自身、教育経験がなく、授業の組み立てや、学生への伝え方などまったく出来ていないところがあり、今年度、教育学などの授業を聴講させていただき、「教える」ことのお手本を見せていただくことが出来た。今後も多くの先生の授業を聴講させていただくことで「教育とは何か」をしっかりと学んでいきたいと思う。その中で、臨床経験が長いという経歴を活かし、看護の面白さやすばらしさを伝え、学生が自らの意思で、この授業に参加したいと思えるような興味深い内容にしていけるよう努力していきたい。

③学生のみなさんへの要望

授業評価については、項目によってはもっと評価にばらつきがあってもよいのではと感じることもあり、学生が適当に記入しているところもあるように感じる。今後より良い授業内容にするためにも講師に遠慮することなく改善したほうが良い点などをどんどん記載してほしい。

◆ 小児看護演習

①授業評価の結果に対するコメント

- ・課題を毎回提示してきたため、学生は事前に学習することができていた。また、講義の中でもできる限り課題に取り組めるよう配慮した。看護過程の展開を段取りよく進めることができたと思うが、この時期は他の講義でも課題が多く出されている。他の講義での課題量についても配慮できるとよかった。
- ・学生の提出した課題に対しても必ず目を通し、不足する部分に対しコメントを加えて返却したが、最終的に学生の理解につながったのか不明確である。コメントが読みづらいという意見もあったため、気をつけていきたい。

②今後の授業における目標

- ・教員の取り組みに対しての学生評価は3.1~3.2であった。看護過程の展開に対し、苦手意識を持っている学生も多い。ましてや小児という対象のイメージがつかないため、学生の戸惑いは予測できた。そのため、講義の冒頭では「子どものころのエピソード」についての学生のスピーチを取り入れ、講義の中では既習の小児看護概論・小児看護学演習に結び付けて教授するなど工夫した。そのことが学生の評価につながったと考える。
- ・例年と大きく変わらない内容・方法の講義であったが、学生に伝わりにくくなってきている印象がある。昨年はこのような評価を受けていないため比較はできないが、今の学生の特性に合わせ、講義内容も変化させなくてはならないことを強く感じた。

③受講学生に対する要望

- ・自由記述が少ないため、学生の授業に対する具体的な意見・要望はわからない。今後授業に反映させていくには、学生が落ち着いて評価できるよう、アンケートの配布のタイミングを図る必要がある。

◆ 母性看護演習

①授業評価に対するコメント

学生は、臨床の実体験を交えて講義を行うと、興味を持ち知識の理解にもつながると思う。

演習では技術の習得を目的とすることもあるので、技術チェックを行う際に、事前に評価表の項目の具体的な説明を行ったことがより効果的であったと思う。

②今後の授業の目標

学生が技術の根拠を理解したうえで実施できるような演習にする。

臨床の現場をイメージできるような講義を取り入れ、関心を持たせる。

③学生のみなさんへの要望

特になし。

【総合教育センター】

◆ 心理学（看護）

①授業評価に対するコメント

評価の各項目で学科の平均値という結果でした。総合教育センターはFD（ファカルティ・ディベロップメント）の推進が業務の1つになっています。これは、教員の教育力向上を図ることが目的です。担当部署の教員であり、研修等にも参加させていただきながら平均値でよいのか…と複雑な思いですが、今後の糧にしていきたいと思います。

授業態度がとてもよく、一部の学生はとても熱心に受講してくれました。授業後に直接感想を伝えてくれる人もいて、とても励みになりました。

②今後の授業の目標

わかりやすく、おもしろい授業を展開することをモットーとしています。心理学がおもしろいと感じて、授業後にもあれこれ考えたり調べてくれることが、私がりなのアクティブ・ラーニング（主体的な学び）です。今後も努力し続けたいと思います。

③学生のみなさんへの要望

2 限目なのに遅刻する人が何人もいました。私語をする人はいませんが、内職する人も気になりました。全員に積極的な参加をお願いします。

これからも 本学の教職員は
学生のみなさんの学びをさらに深めるために
よりよい授業づくりに努力していきます



アンケートにご協力いただきまして大変ありがとうございました。

本年度も、前期・後期を通して本学ではほとんどの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員が高評価を得ていました。本学の教員が学生からの声に耳を傾け、改善の努力を重ねている様子うかがわれます。今後もよろしくお願いします。

全国の大学で、入学から卒業までの間に「学生が何を学んだか」が問われる昨今、今後も大垣女子短期大学ならではの持ち味を生かして、より質の高い教育を実践していきたいと思えます。

本年度から、総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われることになりました。
後期は以下の授業が顕彰の対象になりました。

「特別支援教育Ⅰ」

「リペア基礎（木管）」

